

現代日本論概論「現代日本における職業」

第6講 社会移動と職業・教育

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 階層への帰属と社会移動の仕組み

1 前回課題について

「階級」と「階層」

階級3区分 (または4区分) と理論的な問題

- 所有と経営の分離
- キャリア (=世代内社会移動) をどう捉えるか?
- 個人単位か、家族 (あるいは世帯・夫婦・親子) 単位か

具体的な方法についての疑問

- 無職の人は?
- 性別職域分離 (gender segregation) 問題
- 多元的階層?

2 社会移動における開放性と閉鎖性

「機会の不平等」(inequality of opportunity) の問題 …… 個人に対する社会的資源の分配は、その個人のコントロールできない属性にどの程度影響されているか?

※ 「機会の平等」「機会の不平等」は分野・文脈によってさまざまな意味で使われるので、
要注意の概念である

この問題に接近するために、「世代間社会移動」(intergenerational social mobility) の研究が行われてきた。

→ 子供の階層は親の階層とどの程度関連しているか? (前回配布資料)

3 社会移動の閉鎖性をもたらす要因

近代社会における階層の再生産モデル：

出身 → 教育 → 職業 → ……

近代化した社会では、どこでもほぼ類似の構造が見られる。

- 直接的な世襲
- 財産相続
- 経済的要因による進学の間差
- 学歴そのものの再生産 (吉川, 2006, p. 107) → 日本社会の特徴?

文献

吉川徹 (2006) 『学歴と格差・不平等: 成熟する日本型学歴社会』 東京大学出版会.